

## 韓国・国立民俗博物館における 地域民俗調査

李 徳雨<sup>※</sup>

韓国の国立民俗博物館では2007年から地方自治団体と共同で学術・展示・調査交流を通じた地域の民俗保存・研究の活性化のために済州島を始め、全羅北道、慶尚北道、忠清南道、全羅南道の順で毎年地域の民俗調査を行っている。ソウルにある中央政府機関の国立民俗博物館が主体となって地域民俗調査を毎年実施するのは、1969年に文化公報部文化財管理局（現・文化観光部文化財庁）が主管した『韓国民俗総合調査報告書』<sup>1</sup>以降、初の総合的な民俗調査である。本稿では2007年から2012年現在までの韓国国立民俗博物館の地域民俗調査の目的、研究成果、意義などを紹介することにより、韓国民俗学の地域民俗調査に関する研究動向を理解することを目指す。

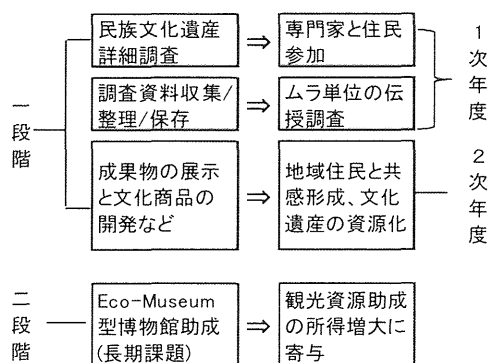
### 1 地域の文化事業の一環として始まった国立民俗博物館の地域民俗調査

韓国の行政区域は1つの特別市、6つの広域市、1つの特別自治市、8つの道、1つの特別自治道で構成されている。この中で地域民俗調査の対象とされたのは8つの道と1つの特別自治道である。8つの道とは京畿道、江原道、忠清北道、忠清南道、全羅北道、全羅南道、慶尚北道、慶尚南道であり、1つの特別自治道は済州特別自治道(済州島)である。国立民俗博物館の地域民俗調査は2007年に済州島をはじめに、毎年「地域民俗文化の年」を選定し、1年間の準備期間と1年間の実行期間を設定し、2年間の日程で事業を進めている。2年間の事業計画は調査地の選定、現地調査、調査報告書の発行の順となり、地域でそれぞれの事業を進めてい

る。

地域民俗調査の2年間の事業内容とその手順は、表1の通りである。

表1 地域民俗調査の事業内容と手順



地域文化事業の一環として始まった国立民俗博物館の地域民俗調査は以下の目的を目指している。

- ①地方自治団体と国立民俗博物館共同の学術展示・調査の交流を通じて地域の民俗保存・研究の活性化を図る
- ②地域の伝統文化と民俗に対する理解の促進と地域独自の文化の力の強化を通じて、地域文化の均衡発展方案を模索する
- ③地域の民俗文化の積極的な発掘と開発を通じて、有・無形の文化観光商品の開発と地域経済の活性化を図る方案に寄与する

また、地域民俗調査の意義について、国立民俗博物館は次のようにその旨を説明している。

今日、我々の社会は急速に変化しています。大量生産に支えられた物質的豊かさは以前と比較して豊かな生活環境を提供してくれますが、一方で我々のすべての生活は徐々に標準化・グローバル化されています。ニューヨークや東京の生活やソウルの生活が徐々に同じ様になっています。このような社会進化の速度が速けれ

※ 神奈川大学歴史民俗資料科学研究科博士課程

ば速いほど、過去はもっと速く消えています。少し誇張して言えば、今日の生活はまさに過去となり、今使っている物と一緒に古物商に投げられていきます。ある時私達は我々の記憶、我々の歴史は、我々の伝統を一つずつの向こうに送っています。

このような現実の中で国立民俗博物館は、「民俗資源の発掘と民俗文化の発展基盤の構築」を推進することになりました。本事業は徐々に消えている生活を調査して記録し、その中で今日の私たちの文化を発見し、それを資源化することを目標としています。その目標を達成するために、具体的な方法として「地域民俗文化の年」を進めます。本事業が達成しようとするところは、単に研究機関のおのおのが受け持った任務だけではありません。それを所有している地域との協力は、本事業を遂行するために、必ず前提にならなければならないことです。したがって、広域地方自治団体と手をつないで1年の準備期間と1年間の実行期間を設定して、事業を推進することにしました。

「民俗資源の発掘と民俗文化の発展基盤の構築」事業はこのように2年という期間を経て運営されますが、事業名にも表わされるように、一回性で終わってしまうものではありません。長期的な「民俗文化の年」を通じて導き出した成果をもとに長期的に各地域の生活パターンを保存し、それを通じて観光資源化する「生態博物館」の構築を理想的なモデルで追求しています。その点で、単純に1年のある期間を設定して集中的に人を集めてスポットライトを浴びる祭りやイベントとは明らかに差異を持っています<sup>2)</sup>。

この目的のために2007年から今まで、毎年地域文化事業という名称で、「地域民俗文化の年」を宣言し、各地域の民俗調査を実施している。その内容は表2のとおりである。

表2 各地域における民俗調査

年度	名称	事業年度	詳細地域	備考
2007	済州民俗文化の年	2006-2007	済州道の下道里、徳修里	完了
2008	全北民俗文化の年	2007-2008	全羅北道の金堤、茂朱	完了
2009	慶北民俗文化の年	2008-2009	慶尙北道の盈徳、軍威	完了
2010	忠南民俗文化の年	2009-2010	忠清南道の月下城ムラ、恩山	完了
2011	全南民俗文化の年	2010-2011	全羅南道の木浦、靈光、長興	完了
2012	忠北民俗文化の年	2011-2012	議論中	進行中

このようにある地域の民俗文化の年を指定すると、地方自治団体と協議をして、地域を選定し、地域民俗調査を開始する。また、事業推進に当たって推進委員会と執行委員会を結成し、事業の全般的な事項（基本計画の樹立・確定、事業指導、コンサルティング、重要事項の議決）に基づいて詳細事項（事業推進計画の樹立と施行、円滑な調査、展示会、イベントサポートのための各機関の役割と支援案樹立・施行）を執行することになる。このため、中央政府機関として、国立民俗博物館が地方自治団体と緊密に関係を維持し、地域の民俗調査を行なうことである。

## 2 年度・各地域別の調査の現状

この章では今まで報告された各地域民俗調査の調査状況の報告を中心にどのような内容の調査が行われたかをみる。地域の民俗調査は大きく地域を選定する地域調査とその地域の特徴を見ることができるテーマ調査、そしてある家庭を選定し、サリムサリ（살림살이、生活財）を調査するサリムサリ（살림살이、生活財）調査に分けられる。まず、地域調査の場合には、既存の民族誌的性格を持った民俗調査で、地域の中にいくつかの場所を選定し、社会構造、生業、歳時風俗（年中行事）、通過儀礼、衣食住、口伝伝承などの項目を調査することである。二番目にテーマ調査はその地域の特産物、自然環境、食文化、墓などいくつかのテーマを選定して調査することである。三番目はある家庭を選定し、その課程にあるすべてのサリムサリを調査することである。地域民俗調査（地域調査、

テーマ調査、サリムサリ調査)が第1次年度に行われて、2年目には、各地域の付帯事業が実施される。

### 1) 2007年済州道

#### ①地域調査

書名：済州民俗調査報告書-下道里 (p.364)



目次：巻頭言、調査概要、目次

- 第1章 調査地概観
- 第2章 社会構造と村の組織
- 第3章 経済生活と生業活動
- 第4章 衣生活
- 第5章 食生活
- 第6章 住生活
- 第7章 民間信仰
- 第8章 人生礼儀
- 第9章 歳時風俗
- 第10章 口碑伝承

書名：済州民俗調査報告書-徳修里 (p.323)



目次：巻頭言、調査概要、目次

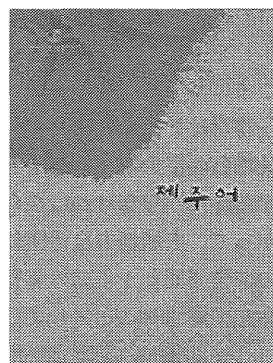
- 第1章 調査地概観
- 第2章 社会構造と村の組織
- 第3章 経済生活と生業活動
- 第4章 衣生活
- 第5章 食生活
- 第6章 住生活
- 第7章 民間信仰
- 第8章 人生礼儀
- 第9章 歳時風俗
- 第10章 口碑伝承

#### ②テーマ調査

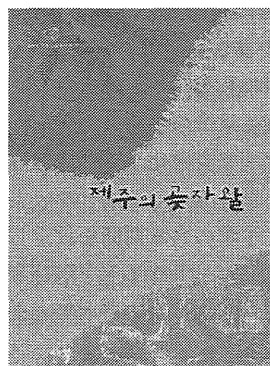
書名：済州語 (p.153)

目次：巻頭言、

- 目次
- 済州語
- 音訓
- 形態
- 通詞
- 語彙
- 付録、参考
- 文献



書名：済州のゴツザワル (p.180)



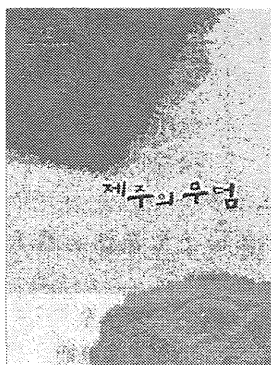
内容：巻頭言、目次

- I. 済州道の火山活動史
- II. ゴツザワルの地質
- III. ゴツザワルの植物と生活
- IV. 歴史のなかでのゴツザワル
- V. ゴツザワルの価値
- VI. ゴツザワルと生活文化遺産

Ⅶ.ゴッサワルの諺からみる濟州人の生き方

Ⅷ.ゴッサワルと濟州未來

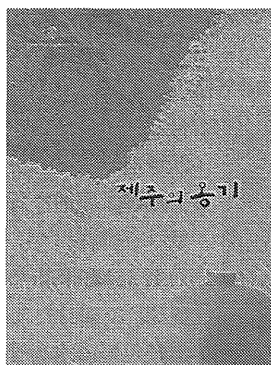
書名：濟州の墓 (p.161)



目次：卷頭言、目次

- I. 墓の記念碑性
- II. 韓国の葬墓制度と儀礼空間としての墓
- III. 濟州の葬法の歴史的展開
- IV. 濟州の墓の類型
- V. 濟州のサンダン文化
- VI. 濟州の墓の石物
- VII. 濟州の葬墓文化
- VIII. 文化遺産としての濟州の墓

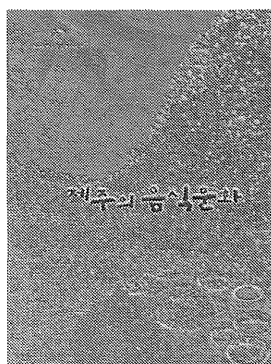
書名：濟州の甕器 (p.153)



目次：卷頭言、目次

- I. はじめに
- II. 濟州道の伝統甕器の生産
- III. 濟州道の伝統甕器の流通
- IV. おわりに

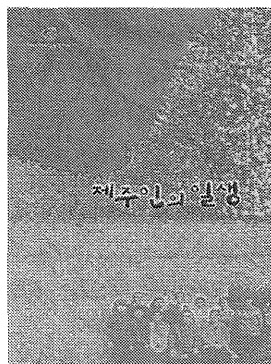
書名：濟州の飲食文化 (p.221)



目次：卷頭言、目次

- I. 濟州飲食文化の概念
  - II. 濟州飲食の文化的構造と特徴
  - III. 濟州飲食の文化的意味
  - IV. 濟州飲食の種類
- <付録> 歴史文獻にみえる濟州飲食

書名：濟州人の一生 (p.176)

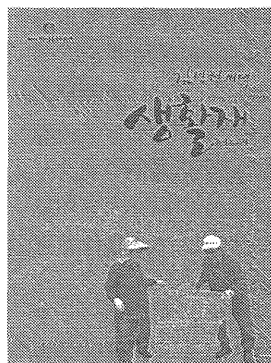


目次：卷頭言、目次

- I. はじめに
- II. 誕生儀礼
- III. 婚礼
- IV. 葬礼
- V. 祭礼
- VI. 儀礼の手順と意味
- VI. おわりに

③サリムサリ (살림살이、生活財) 調査

書名：濟州民俗調査報告書-金氏の生活財



(p.379)

目次：巻頭言、はじめに、家計図

- 金氏の人生の跡
- 尹氏の人生の跡
- 生活財でみる生涯史
- 生活空間：낭간、마래、큰구들、족은구들、안내구들、정지、청방、모옥당、바갈정지、안거리、창고、마래、족은구들、큰구들、정지、밖거리、쇠양창고、기타
- 金氏の家の生活財現況表
- 金氏の生涯史採録
- 尹氏の生涯史採録

#### ④付帯事業

- ・ 2007 済州民俗文化の年宣言式 — 2月3日 (済州)
- ・ 済州民俗文化中庭— 5月25日～27日、漢拏体育館 (済州)
- ・ 済州地域博物館連合展示— 5月18日～27日、漢拏体育館 (済州)
- ・ 済州民俗写真展— 3月28日～5月28日、国立民俗博物館 (ソウル)
- ・ 企画展ホボックと済州のすやき — 6月13日～8月15日、国立民俗博物館 — 9月18日～10月30日、済州民俗自然史博物館
- ・ 済州民俗文化国際学術大会— 3月28日～5月28日、国立民俗博物館 (ソウル)



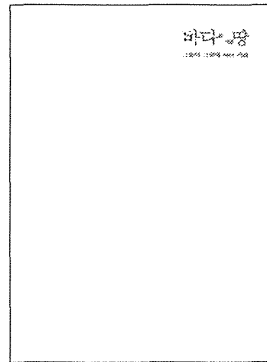
2007 제주인속문화의 해  
The Year of Jeju Inheriting Culture

## 2) 2008年全羅北道

### ①地域調査

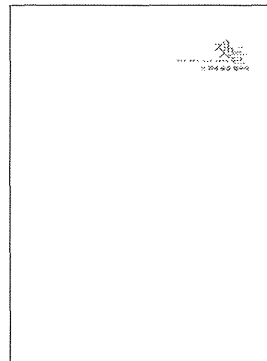
書名：海を埋めた地、彼らがそこに住む理由 (p.358)

目次：巻頭言、目次  
深浦ムラの歴史



書名：ジェットドゥル山の上に田畑を耕す (p.432)

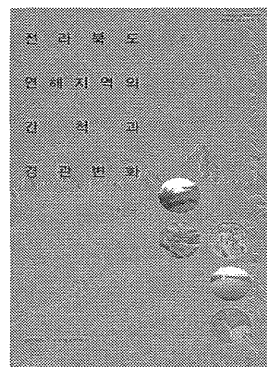
目次：巻頭言、目次



### ②テーマ調査

書名：全羅北道沿海地域の干拓と景観の変化 (p.391)

目次：はじめに



おわりに

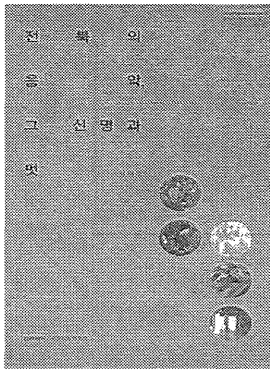
深浦ムラの人々  
ムラ組織  
生業と経済活動  
1年の周期で繰り返される行事  
祭礼と宗教生活  
余暇と日常生活  
深浦ムラで見つけた他の価値

マドゥル概観  
社会組織  
家族と親族  
生業活動  
衣食住  
歳時風俗  
宗教と信仰  
人生儀礼  
口碑伝承

全北海岸地域の自然環境  
干拓の人文的な背景  
沿海地域 干拓の展開  
干拓農地の水利管理体制  
干拓地の土地利用  
干拓村

書名：全北の音楽、その神明と趣 (p.221)

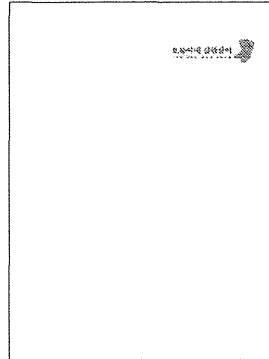
目次：伝統音楽の宝庫、全羅北道の音楽概観



全羅北道の昔音楽  
朝鮮ソングの風流  
伝統  
全北の農楽  
世界文化遺産の音楽、パンソリ  
全北の諸散調と散調名人  
全北の民謡  
全北の巫俗音楽

全北の三絃六角と男寺黨の公演  
全北の仏教儀式、醮山作法

目次：卷頭言、目次



サリムサリをのぞく  
金氏、私の人生  
オモギ家の生活空間構成  
梁氏と金氏夫婦の日常からみたサリムサリ  
オモギ家サリムサリを引き出してみる

書名：金堤 深浦里の姜氏と金氏夫婦のサリムサリ (p.151)

目次：卷頭言、目次



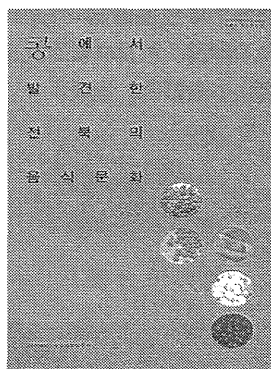
サリムサリをのぞく  
深浦里の姜氏と金氏の生き方  
姜氏と金氏夫婦の生活記録部  
姜氏と金氏夫婦の深浦野良秋の収穫  
姜氏と金氏夫婦の生活空間構成

姜氏と金氏夫婦のサリムサリ引き出してみる

書名：豆から発見した全北飲食文化 (p.185)

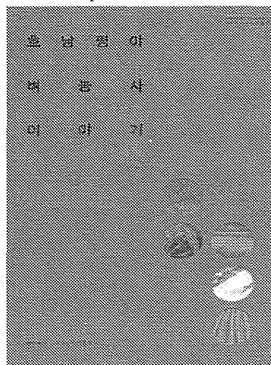
目次：飲食文化と人類学

全北の豆  
全北の豆食品  
豆から発見した全北飲食文化



書名：湖南平野の稲作物語 (p.201)

目次：全羅北道の稲作  
稲はどんな食物なのか  
稲の一生  
稲の品種と稲研究機関



③サリムサリ (살림살이、生活財) 調査

書名：オモギ家サリムサリ (p.143)

④付帯事業

- ・2007推進及び諮問委員構成—2月
- ・協約式—3月6日
- ・学術調査実施—3月~10月
- ・2008全北民俗文化の年 宣言式—5月1日、全州博物館
- ・尋ねていく博物館—4月~10月 (全北地域)
- ・全北博物館協力ワークショップ—11月 (全北都内)
- ・博物館協力大人工芸教室 (韓紙工芸) —5月9日~8月1日 (1学期) 9月19日~12月12日 (2学期)、歴史博物館
- ・文章大会/写生大会—5月25日、全州博物館

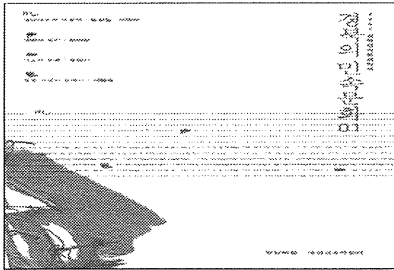
- ・写生大会表彰、入賞作展示会—6月4日～18日、全北道庁ギャラリー
- ・民俗祭り—全州の竜王祭再現行事—5月31日～6月1日、ドクジン池
- ・民俗祭 - 全北民俗文化祭—9月5日～8日、全北井邑
- ・全北学術調査報告書出版—8月末
- ・全北方言コンテスト大会—9月7日、全北井邑
- ・全北文化企画展—10月1日～10月20日、民俗博物館と全北金堤
- ・除幕式と調査報告書配布—9月18日、全北金堤
- ・全北文化学術セミナー'08韓国民俗学者大会—10月30日～31日、全北道庁

### 3) 2009年慶尙北道

#### ①地域調査

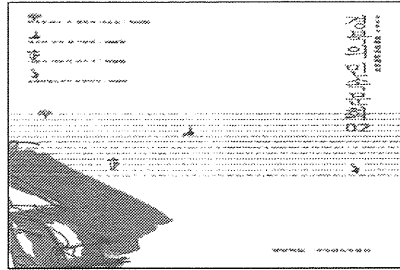
書名：慶北の民俗文化 1 (p.473)

目次：目次、巻頭言



嶺南大路と洛東江  
士(ソンビ)と兩班  
村と文中  
慶北女性の文章をつくる

書名：慶北の民俗文化 2 (p.501)



目次：目次、巻頭言

ムラの森

酒と飲食文化

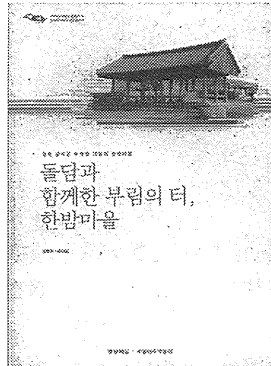
ナムルと薬草

東海岸別神クツ

#### ②テーマ調査

書名：軍威民俗誌—石垣と一緒にした缶林の所、ハンバムムラー (p.391)

目次：巻頭言、目次



ムラの概観

生業

衣食住

家族と親族

社会組織

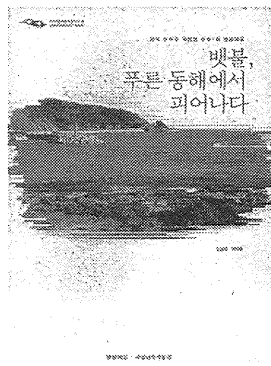
宗教

歳時風俗

余暇生活と遊び

人生儀礼

書名：盈徳民俗誌—船の火、青い東海に咲く (p.403)



目次：巻頭言、目次

ムラの概観

家族と親族

生業と経済生活

社会組織 衣食住

歳時風俗 人生儀礼

礼

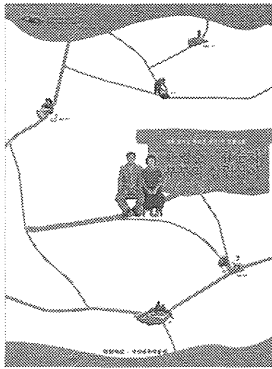
宗教生活

余暇生活と遊び

口碑伝承

### ③サリムサリ (살림살이、生活財) 調査

書名：劉氏金氏夫婦のサリムサリ (p.277)

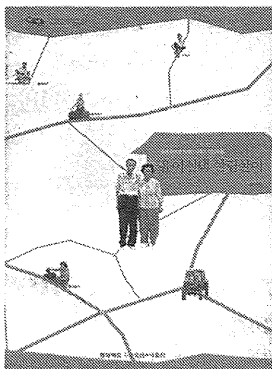


目次：巻頭言、目次

1. 漁村家庭のサリムサリに対する基本的視覚
2. 劉氏金氏夫婦の昨日と今日の物
3. 劉氏金氏夫婦家屋の景観と空間構成
4. サリムサリからのぞく漁村夫婦の世界
5. 漁師の操業日誌から見る海
6. 劉氏金氏夫婦のサリムサリ 목록 (1)、(2)

書名：軍威生活財—尹氏家のサリムサリ (p.263)

目次：発刊詞、目次



調査概要  
尹氏家屋の歴史と空間活用  
尹氏夫婦の人生の物語  
サリムサリからみた尹氏家族の物語  
お爺さんの誕生日に集まった家族  
尹氏夫婦の日常生活

尹氏サリムサリ目録

### ④付帯事業

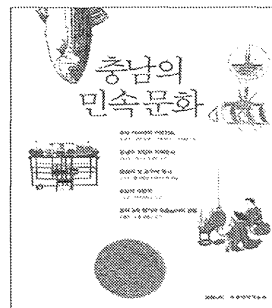
- ・宣言式—2月9日 (安東)
- ・民俗祭り—9月11~13日 (慶北)

- ・民俗ムラ体験—5~11月 (慶北)
- ・白書出版及び配布—12月 (ソウル)
- ・地域民俗文化の行事進行—2~12月 (慶北)
- ・尋ねていく博物館—4~11月 (慶北)
- ・多文化家族プログラム運営—3~11月 (慶北)
- ・疎外階層対象教育プログラム—3~11月 (慶北)
- ・博物館協力事業—3~11月 (慶北)
- ・調査報告書出版—3月 (ソウル)
- ・調査ムラ記念版 除幕式—4月~5月 (慶北)
- ・慶北民俗 調査ムラ写真展—10~11月 (慶北)
- ・「2009韓国民俗学者大会」—10月29~30日 (慶北)
- ・「慶北民俗文化の歳」展示—6月24日~10月26日 (ソウル)
- ・慶北の説話調査記録—1~12月 (慶北)
- ・無形文化財記録化事業—3~12月 (慶北)
- ・文化遺産観光資源化事業—3~12月 (慶北)

### 4) 2010年忠清南道

#### ①地域調査

書名：忠南の民俗文化 (p.507)



目次：巻頭言、目次

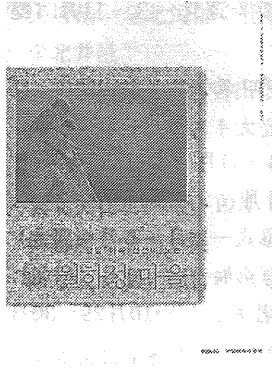
忠南西海岸の漁労民俗  
忠清南道の塩辛と食醃文化  
錦江の昔の浦の入口と市場  
湖西3代名家の生き方と伝統  
忠南のお座りクッ



②テーマ調査

書名：月明かりの下で神仙が遊ぶ、月下城ムラ (p.317)

目次：巻頭言、目次

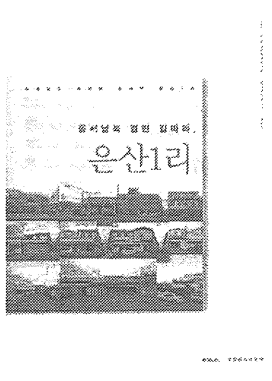


- 01 月の模様の海岸を付いて行く、月下城
- 02 昔の海と陸地
- 03 改めて耕す海
- 04 月下城ムラの日
- 05 月下城ムラでつきあう
- 06 月下城ムラで安寧の願い

07 月下城ムラのムラ世帯調査表

書名：東西南北に開いた道より、恩山 1 里 (p.319)

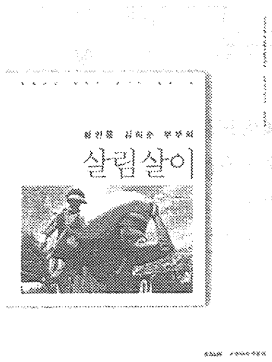
目次：巻頭言、目次



- 01 ムラの概観
- 02 大小の集まり
- 03 生業
- 04 食べ物と家
- 05 人が生まれてから死んだ後まで
- 06 歳時風俗
- 07 信仰生活
- 08 民俗芸術
- 09 口碑伝承

③サリムサリ (살림살이、生活財) 調査

書名：黄氏、金氏夫婦のサリムサリ (p.271)



目次：巻頭言、目次

- 01 前書き
- 02 ソンオギ家、彼らの歩み
- 03 ソンオギ家、彼らの生き方
- 04 ソンオギ家サリムサリ
- 05 三代が住む所 (1)

05 三代が住む所 (2)

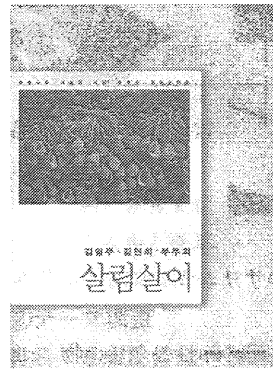
05 三代が住む所 (3)

05 三代が住む所 (4)

後書き

書名：金氏、金氏夫婦のサリムサリ (p.349)

目次：巻頭言、目次



- 01 調査概要
- 02 夫婦の一日の物語
- 03 夫婦の人生物語
- 04 夫婦が住む空間 (1)
- 05 夫婦が住む空間 (2)
- 06 夫婦が働く空間

④付帯事業

- ・ (国立民俗博物館) 忠南民俗調査及び報告書出版 (2009.01~2010.10)
- ・ (国立民俗博物館) 忠南民俗ムラ写真展及び현판除幕式 (2010.10~11)
- ・ (国立民俗博物館) 2010韓国民俗学者大会 (2010.10.29~30)
- ・ (国立民俗博物館) 尋ねていく子供博物館 (2009.07~2010.11)
- ・ (共同) 忠南民俗文化年宣言式 (2010.04.10)
- ・ (共同) 第4回全国アーチェリー文章大会 (2010.07.20~22)
- ・ (共同) 2010忠南民俗祭りハンマダン (2010.10.06~07)
- ・ (共同) 特別展及び巡回展「行商人、再び道を出る」(2010.03~10月)
- ・ (共同) 1泊2日忠南民俗ムラ体験 (2010.04~12)
- ・ (忠清南道) 忠南民俗文化商品の開発 (2009.09~2010.12)
- ・ (忠清南道) 忠南無形文化財記録化事業 (2009.09~2011.05)

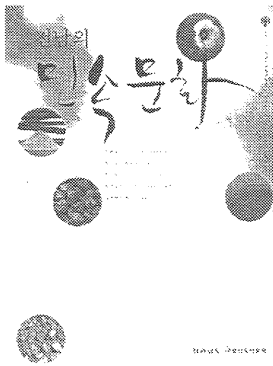
- ・（忠清道）百濟説話集出版（2010.04～12）
- ・（忠清南道）忠南民俗研究目録集出版（2010.02～12）
- ・（忠清南道）古宅音楽会（2010.10）
- ・（忠清南道）泰安葬礼写真展（2010.11～2011.01）

## 5) 2011年全羅南道

### ①地域調査

書名：全南の民俗文化（p.217）

目次：巻頭言、目次

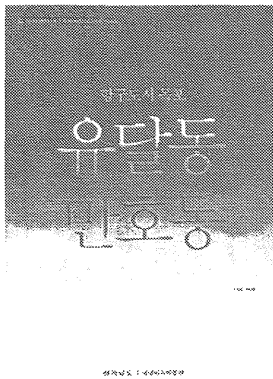


南道の畑作綿と麻  
南道文化の原形質  
干潟と天日塩  
南道の家内手工業  
の竹細工と陶器工  
芸品  
南道のごちそう料  
理のコマクとガン  
ギエイ  
全南地方の石垣

### ②テーマ調査

書名：港湾都市木浦の儒達洞、萬戸洞（p.329）

目次：巻頭言、目次



調査概要  
調査地概観  
儒達洞、萬戸洞の  
変化—開港と景観  
の変化  
儒達洞、萬戸洞の  
変化—生活様子の  
変化  
人々の物語  
一年暮らし  
宗教生活

遊びと余暇

書名：靈光郡法聖浦（p.299）

目次：巻頭言、目次

法聖浦の民俗誌 概要  
民俗からみる法聖浦の過去



法聖浦の民俗誌的  
な現在 1  
法聖浦の民俗誌的  
な現在 2  
伝承調査  
資料

書名：チルリアンソク上金ムラ（p.401）

目次：巻頭言、目次



調査概要  
地域概要  
上金ムラとチルリ  
アンソクムラ  
上金ムラの生業活  
動  
上金ムラの余暇空  
間  
上金ムラの社会組  
織

上金ムラの人生儀礼

チルリアンソクの門中祭祀

チルリアンソクの門中書堂

チルリアンソクの年中行事と時間の活用

チルリアンソクの民俗文学

参考資料

### ③サリムサリ（살림살이、生活財）調査

書名：木浦萬戸洞のアリ家のサリムサリ（p.419）

目次：巻頭言、目  
次

調査概要

空間物語

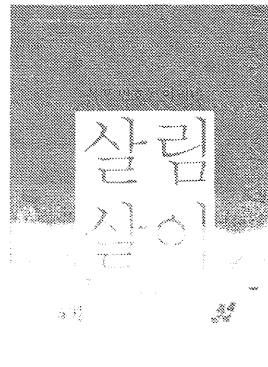
サリムサリ物語—

奥の間

サリムサリ 物語

—子供部屋 1

サリムサリ 物語



—子供部屋 2  
 サリムサリ 物語—居室 1  
 サリムサリ 物語—居室 2  
 サリムサリ 物語—屋根裏部屋  
 サリムサリ 物語—厨房  
 サリムサリ 物語—トイレ  
 サリムサリ 物語—屋上  
 サリムサリ 物語—玄関  
 サリムサリ 物語—倉庫  
 サリムサリ 物語—作業室  
 サリムサリ 物語—作業室トイレ  
 家族 物語  
 付録 | サリムサリ 目録

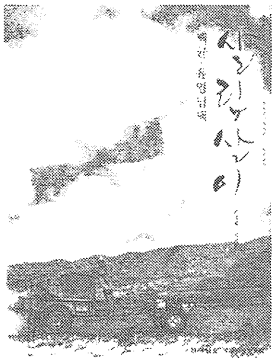
書名：呉氏のサリムサリ (p.273)

目次：巻頭言、目次



調査概要  
 呉氏の生涯談  
 呉氏の四季  
 呉氏の日  
 呉氏のサリムサリ  
 1  
 呉氏のサリムサリ  
 2  
 呉氏のサリムサリ  
 3  
 呉氏のサリムサリ 4  
 呉氏のサリムサリ 5  
 呉氏が作って食べるもの  
 サリムサリ調査を終えて

書名：白氏、尹氏家のサリムサリ (p.387)



目次：巻頭言、目次  
 調査概要  
 白氏、尹氏家族  
 と가옥의 歴史  
 白氏、尹氏家屋の  
 空間活用 1  
 白氏、尹氏家屋の  
 空間活用 2

白氏、尹氏家屋の空間活用 3  
 白氏、尹氏家屋の空間活用 4  
 白氏、尹氏家屋の空間活用 5  
 白氏、尹氏家屋の空間活用 6  
 白氏、尹氏の人生の物語  
 白氏、尹氏の日常生活と サリムサリ  
 白氏、尹氏の衣食と サリムサリ  
 白氏、尹氏の祖先祭祀準備  
 参考資料

#### ④付帯偉業

- ・ (国立民俗博物館) 全南民俗調査報告書 出版 (2011.01~06)
- ・ (国立民俗博物館) 全南民俗ムラ記念板除幕式 (2011.11)
- ・ (国立民俗博物館) 全南民俗ムラ写真展 (2011.10)
- ・ (国立民俗博物館) 韓国民俗学者大会 (2011.10)
- ・ (全羅南道) 全南民俗報告書出版 (2011.01~12)
- ・ (共同) 全南無形遺産記録化事業 (2011.02~12)
- ・ (共同) 第5回全国弓道大会、文章大会 (2011.09.30~10.02)
- ・ (共同) 全南無形遺産記録化事業 (2011.02~12)
- ・ (共同) 全南民俗文化の年特別展、巡回展 (2011.07~12)
- ・ (共同) 行こう一泊二日全南民俗ムラ体験 (2011.04~11)

#### 6) 忠清北道 (現在進行中)

- ・ (国立民俗博物館) 忠清北道民俗ムラ調査及び주체調査 (2011.01~12)
- ・ (共同) 2012 忠清北道民俗文化の年、協定式 (2011.06.02)

#### 3 地域民俗調査の特徴と意義

国立民俗博物館の地域民俗調査は上述した通り、毎年ある地域を選定して、地域調査を中心

に行なっている。中でも地域を2～4ヶ所選択して、地域調査をしている点は、既存の全国民俗調査とは異なり、標本調査として、その特殊性がみられると思われる。地域を選定する基準において、客観的な基準が定められたわけではないが、国立民俗博物館と地方自治団体の協議の中で選定されることは、一長一短の結果を生むことである。この特徴は、テーマ調査の事例にも適用される。2～6つのテーマを選ぶ上において普遍性と特殊性とに分かれるという悩みは、地域の民俗調査の特徴といえる。また、これまで民具の調査や、過去のことだけを中心に調査して記録した作業を抜け出して、一家庭のすべてのサリムサリ（生活財）を取り出して調査したことは、既存の民俗調査とは異なる大きな特徴であるといえる。これは日本での生活財研究、日常生活研究の重要性が要求される流れと類似点をみせているといえる。

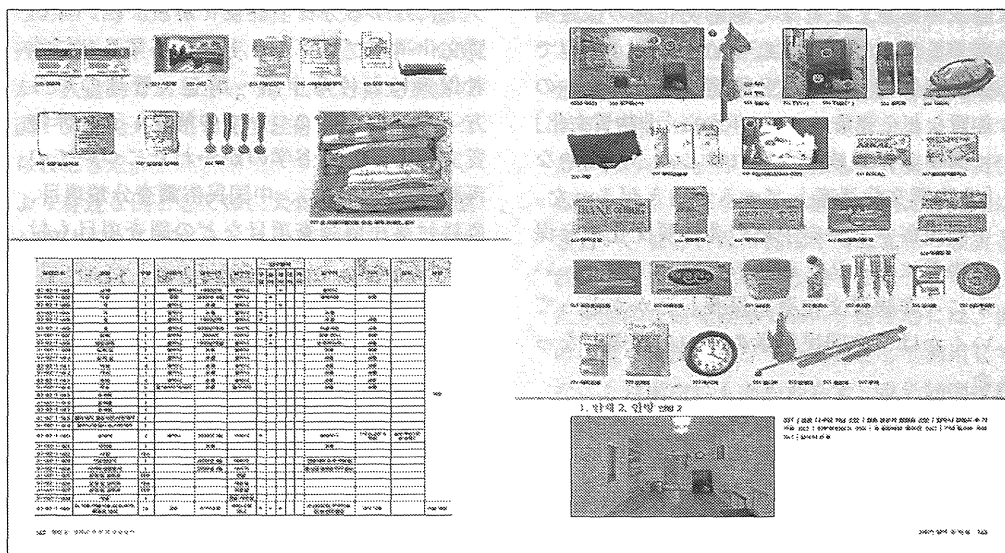
このような特徴は地方政府と中央政府が協力して、全国的な調査を実施したという点で大き

な意義を持っている。また、単純な民俗調査に終わって研究者によるデータだけを重視するのではなく、様々な付帯事業を実施し、実際に一般人にも近づこうとしている点は民俗学の新たな発展可能性が伺える意味で、意義を持っているといえる。また現在の国立民俗博物館のホームページでは地域の民俗調査報告書をウェブ上で公開しており、当時撮影した写真データも一般に公開している。

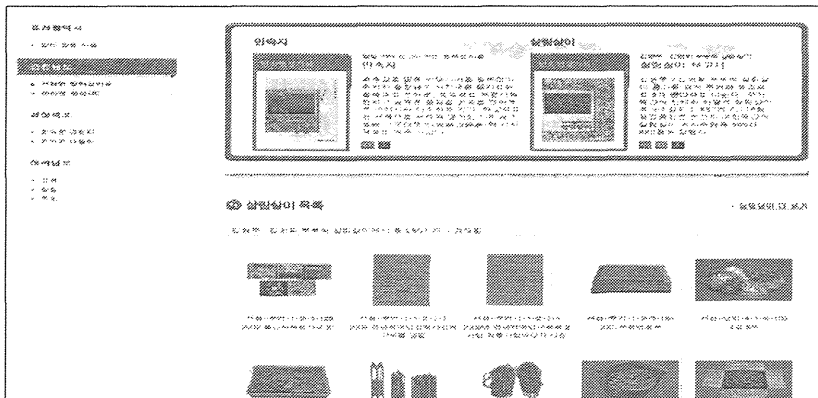
註

<sup>1</sup> 第1編は全羅南道編（1969）から全羅北道編（1971）、慶尚南道編（1972）、慶尚北道編（1974）、済州島編（1975）、忠清南道編（1976）、忠清北道編（1977）、江原道編（1978）、京畿道編（1978）、ソウル編、平安南北道、黄海道・編（1980）、咸鏡南北道編（1981）で12編に及ぶ各市・道別の地域的な民俗総合調査報告書である。

<sup>2</sup> <http://www.nfm.go.kr/Education/folkyear.jsp>



資料 1：サリムサリ(生活財)調査報告書の内容の一部



資料 2 : 情報公開された調査資料(<http://efw.nfm.go.kr/service/main.do>)

新刊紹介

烏 丙 安 著

『非物質文化遺産保護理論与方法』

21世紀に入って、「非物質文化遺産保護」は中国民俗学研究において、最も重要キーワードとなっているといっても過言ではない。「非物質文化」とは「無形文化」の中国語訳である。これまで無形文化財の保護制度がなかった中国では、2003年にユネスコで採択された「無形文化遺産保護条約」への加盟などを背景に、2004年から「非物質文化」に関する保護政策が現れはじめ、全国的な「非物質文化遺産」ブームが巻き起こった。中国民俗学も政府主導の非物質文化遺産保護事業に巻き込まれる形となっており、いかに「非物質文化遺産保護」とかかわっていくかは、中国民俗学の一つの課題となった。

本書は、自ら中国非物質文化遺産保護事業委員会の副主任を務める民俗学者烏丙安氏が、2003年から実際に民間文化遺産及び国家非物質文化遺産保護事業に参加した体験・知見・実践をまとめた記録である。その内容は概ね以下のようにまとめることができる。一、ユネスコ「非物質文化遺産」の概念の解説とユネスコ非物質文化遺産保

護事業の経緯についての紹介。二、民俗学者の立場からの、非物質文化遺産保護重要プロジェクトに関する提言。三、具体的な事例を挙げて、非物質文化遺産重用プロジェクトに対する分析・評価・解説。四、非物質文化遺産プロジェクト保護事業及び伝承者保護における申請・調査・管理のやり方・ルールなどについての解説。五、非物質文化遺産と民俗学のかかわりについての再評価。その他に、中国民俗調査分類項目、農耕村落民俗調査項目などの調査項目も付録されている。

本書は、筆者の長年の非物質文化遺産事業に参加した貴重な体験を多く記録されており、このように、中国民俗学界は、その蓄積してきた研究手法・理論・経験を以て、非物質文化遺産保護事業に大きく寄与してきた。しかし、幾つかの問題点も指摘された。非物質文化遺産保護への参加は、民俗学者に民俗学の問題点を再認識させる機会をもたらしたといえる。 (余 志清)

文化芸術出版社 2010年7月刊 339頁